

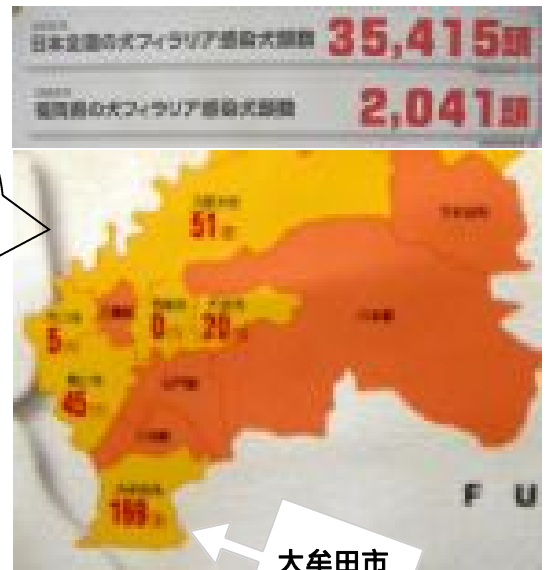
キャビちゃんのちょっといい話 Vol.27

H19.6.1発行
作成：スタッフ一同
監修・発行：かだ動物クリニック
tel 0944-56-7100
fax 0944-56-7107

フィラリア症予防薬 投薬始めてますか？

気温が15℃を超えると蚊の吸血が始まるといわれています。遅くとも、この1ヶ月後には投薬を始めないといけません。まだ投薬していないワンちゃんはお早めに!! 投薬を始める前には、現在フィラリアに感染していないか確認するための血液検査が必要です。

この頭数は動物病院（カッコ内が病院件数）でフィラリア症検査をしたワンちゃんのうち、感染が認められた頭数。実際にはもっともっとうちが多い。



大牟田市
169 (8)

狂犬病予防注射

狂犬病予防注射は1年中いつでも動物病院で打つことができます。打ち忘れてしまったワンちゃんは送られてきているハガキを持ってご来院ください。費用は集合注射で打つ料金と変わりません（初年度登録料含む6,050円、次年度から3,050円）。

マイクロバブルバス

当院隣のダダペットハウスに1年前から導入されたドッグバス。マイナスイオンを帯びたマイクロバブルが発生したお風呂の中にワンちゃんを入れると、毛穴の奥に溜まった老廃物まできれいに落としてくれます。フケやアカも軽減するので、アレルギーの原因となるコナダニの発生を抑制する効果も期待でき、小さいお子様やお年寄りのいらっしゃるご家庭には特におすすめです。

これからの季節、皮膚のトラブルが多発しますが皮膚を清潔に保つ事で皮膚病のリスクを軽減する事ができます。また、ワンちゃん独特の体臭も緩和する事ができるので、梅雨時期には嬉しいですね。そして、何より嬉しいのがワンちゃんにとっても気持ち良さそうにしている事。中にはウトウト寝はじめのワンちゃんも……。ただ今、ショップでは『マイクロバブルバスお試しキャンペーン 6月30日まで』を開催中で、初めてご利用のワンちゃん1回限りマイクロバブルバス料金が無料になります。この機会に試してみたいですか？

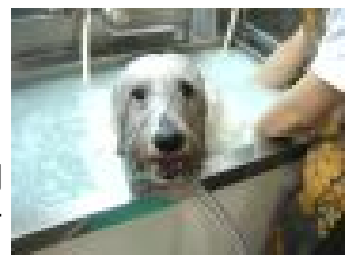
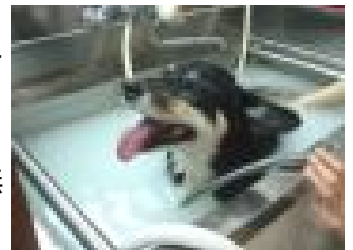
* キャンペーンの無料チケットを当院受付でお渡ししています。

必要な方は受付にお申し付けください。

* 完全予約制ですので、ご予約の上ご来店ください。

また別途シャンプー料金がかかります。詳しくはショップにお尋ねください。

すでにご利用いただいているワンちゃんは、お友達をご紹介いただきその方がご利用になると、ご紹介した方とご紹介をうけた方両方が無料に。ショップでご紹介チケットをもらわれて下さい。



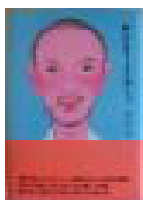
NEW

中村先生ってどんな人？長い間の謎になっている方、いらっしやると思います。そこで今回から……

NEW Dr.中村 私の趣味

読書や音楽、絵画などいろいろありますが、今回はおすすめの本を一冊紹介したいと思います。

『酔いがさめたら、うちに帰ろう』 鴨志田 穰 スターツ出版



元 戦場のカメラマンの作者の、最初で最後の小説です。アルコール中毒患者の“僕”を中心にアルコール病棟での生活がおもしろおかしく書かれています。フィクションとなっていますが、ほとんど作者の実体験を元に書かれているようで、最後の結末も何だかさびしい気持ちになります。

病気シリーズ

甲状腺機能低下症

甲状腺機能低下症とは、様々な原因により甲状腺から放出されるべきホルモンが分泌されなくなり、脱毛や沈うつなどの症状が出る内分泌疾患です。甲状腺機能低下症は犬にはよく見られる内分泌疾患で猫では極まれにしか見られないため、今回は犬について説明します。

<原因>

甲状腺機能低下症になる原因の90%は甲状腺組織の破壊によるものです。破壊の原因としては自己免疫性と特発性萎縮のどちらかによるものがほとんどです。それ以外の原因としては甲状腺を刺激するホルモンを分泌する下垂体の疾患、外傷、腫瘍などがあります。

<症状>

甲状腺ホルモンは体内の全ての細胞に作用して、活動的にさせるためのホルモンなので、それが不足すると代謝が悪くなり様々な症状が発現します。最も多いのは皮膚の変化で、脱毛や乾燥があります。その他の症状では無関心、沈うつ、肥満、筋力低下や寒冷不耐性（寒さに弱くなる）などが一般的です。まれな症状としては、眼の異常、巨大食道症などで、重症な物では昏睡があります。

<検査>

甲状腺機能低下症になると甲状腺から放出されるホルモンが低下し、体内に影響を与えるので、ホルモンの低下以外にも様々な検査項目で異常がみられます。最も一般的なのはアルカリフォスファターゼとコレステロール及び中性脂肪の上昇です。この2項目で異常がみられたり、疑わしい症状がある場合は甲状腺ホルモン検査をします。

<治療>

検査によって診断がつけば治療に入ります。治療は不足しているホルモンを内服薬で補っていきます。甲状腺のホルモン剤は心疾患が無ければ副作用もほとんどありません。

飼主様（動物たち）へ お礼

今日、福岡県獣医師会の講習会を受けてきました。テーマは『小動物医療の現状と将来の課題』というものでした。その中で、『獣医療にはスタンダードがない』という話がありました。確かにそうだと思います。人の医療では、良いのか悪いのか“健康保険で認められているもの”というおおまかなスタンダードが存在します。しかし、動物病院にはないのです。ひとつの病気に対して、何処まで検査をするのか？どのような治療をするのか？各動物病院で違います。そのうえ、技術、設備、診断能力にも差があり、診療料金も違います。おそらくいくつかの動物病院に行ったことのある方なら、各病院の違いに疑問をお持ちのことと思います。新しい検査機器があり、きちんと検査すれば、その分診療料金は高くなります。良い薬を使用すればやはり高くなります。“治療費が高い”といっても治療の内容は様々で、料金だけで比較することもできないのです。それでは、何が動物（飼主さん）のためになるのでしょうか？少し費用はかかっても質の高い診療をすることなのでしょうか？それとも多少、質は低くても安く診療する事なのでしょうか？難しい問題です。質が高く低料金であればそれが一番なのですが、なかなかそうはいきません。おそらく何が一番かは、飼主さん一人一人違うのだと思います。

この病院を開院して13年が経ちました。いつも目標にしている事は『質の高い獣医療を患者さんに提供する事』です。大牟田という地方都市にありながら、東京並みの、いやそれ以上の獣医療を提供したい。いつもそう思い仕事をしてきました。そのために出来る限り、東京や大阪でのセミナーへ参加して勉強し、設備投資もしてきました。おかげさまで設備も知識も他の病院には負けない自信があります。しかし、まだまだ道半ばです。獣医療は日進月歩で進歩しています。立ち止まってしまったら、それは後退していると同じなのです。これからも頑張っって常に勉強していかなければなりません。しかし、この事は患者さんの理解があつてこそ、できることだと思っています。今までセミナー出席のため病院を不在にすることが多かったかもしれませんが。周りの病院に比べ多少診療料金が高い事があつたかもしれませんが。（ですがその内容には自信があります。）そんな当院を主治医だと言って頂ける多くの飼主さん、また当院が主治医で良かったと言ってくれる動物たち（これが一番うれしいです）に心から感謝したいと思います。ありがとうございます。

かだ動物クリニック
院長 加田裕二